

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 履修登録科目数の上限設定によって履修者数を適正化する	→開講科目数と履修者数	B
2. 教務主任等による学習指導や学生主任等による生活状況の把握によって成績不振者等の就学意欲を向上する	→「成績に関する面談」の対象となった当該学生の単位取得状況や進級・卒業状況	B
3. 「人文学の幅広い教養」を提供するためにシラバスの情報提供方法を多元化する	→ネットシラバスの閲覧およびダウンロード可能箇所数とそれぞれのアクセス数	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

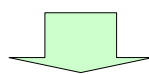
☆	(方針) 目標1に関しては、たとえば多人数履修者科目については履修者数の制限を行い、授業のスムーズな運営を目指す。 目標2に関しては、特に成績不振者等に焦点を当て、就学意欲の向上を目指す。
☆	(現状説明) 目標1に関しては、教職科目であることなど特殊な事例ではあるが、2009年度春学期における最多履修者数の授業は781名（日本史概説Ⅰ）、秋学期では707名（舞台文化論）というように700名を越える多人数履修科目がある。「総合」科目などでも多人数履修科目が散見された。2010年度からは、たとえば総合A、総合Bにおいて履修者数の制限をかけるなど履修者数の適正化に努めている（総合Aについては2009年度が409名であったため、2010年度には200名という制限を設けた）。目標2に関しては、すでに2008年度から成績不振者については個別に面談を行い、学習指導を実施している。たとえば2009年度には前年度3月時点での成績不審者・未進級者91名（4学年計）を確認した上で呼び出しを行い、それに応じた学生に対して面談を実施した。ただしその後、成績や生活状況の向上が図られたか否かについては未確認である。
☆	(現状説明) シラバスに基づいて授業を実施しているが、シラバスの情報提供方法の多元化には着手していない。なお、2010年5月22日から同年6月21日の1ヵ月間の全学でのネット・シラバス検索数は3879回であった。文学部だけに限定されたデータについては現時点では整備されていない。
☆	成績評価および単位認定は適切に行われている。
☆	特に実施していない。

☆	その他
---	-----

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	一部科目における履修者数の制限 (ex. 総合A : 2009年度 : 409名→2010年度 : 200名)
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



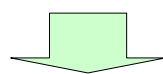
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	多人数履修者科目における履修者数の制限をより広範に行う。本学部カリキュラム委員会では2011年度に向けて多人数授業科目を分割するなどの試みを検討している。
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	成績不振者に対する面談実施後の成績の確認。
小項目6.3.2	シラバスの提供方法およびシラバス利用状況を確認するための妥当性あるデータの不足。
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	成績不振者に対する面談実施後の成績の追跡調査を実施する。
小項目6.3.2	シラバスの提供方法の再検討, シラバス利用状況を確認するための妥当性あるデータの検討を教務委員会に働きかける。
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

☆	その他 (自由記述)
---	---------------

### Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.3.1の「現状説明」で、成績不振者への面談の結果について、データを収集しておくことが望まれます。留年者や退学者減少に資することができれば、成果として評価できます。

【学内委員】

○履修者数の適正化のための試みが行われていることは評価できます。ただ、文学部は他学部と比べて開講科目数が多いと思われませんが、なにゆえに特定の科目の履修者が異常に多くなるかということの原因の解明は必要です。また、教務主任や学生主任等によるきめ細かい指導は今の学生にとっては重要であると思われれます。引き続き努力がなされることが期待されます。

○これだけ教職関係科目の受講者が多いのは文学部の宿命だともいえます。よき教員を輩出するためにも人数制限等は必要で評価できます。

○また成績不振者に対するケアも評価できます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。そのためにも要素を視野に置きながら本シートを見ただけである程度のことわかるよう、もう少し詳しくご現状説明をお願いします。特に小項目6.3.3は簡潔に過ぎると思います。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「3-1. 学士課程の教育内容・方法(2) 教育方法 ②1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満で設定している」については、本水準を満たしていない学年があり助言対象となる場合があります。改善に向けご努力ください。

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 6.3.1については成績不振者のデータ収集に努めたい。多人数履修科目については受講生の所属学部などの点も含め、改めてデータ収集を実施する。6.3.3については現状でも成績評価および単位認定は適切におこなわれているが、中項目6.1において示されているディプロマ・ポリシーの策定と関連づけながら、成績評価および単位認定の方法がより妥当性の高いものとなるよう再考していきたい。

### Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
